

# 『「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

## ■アンケート調査概要

調査目的	『「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます』を読んだことのある10代～50代の男女18名
調査期間	2025年10月23日～2025年10月24日 2026年1月25日 2026年4月8日 2026年6月10日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	ランサーズ
データ使用サイト	<a href="https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/kimiwoaisurukihanaitoitta/">https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/kimiwoaisurukihanaitoitta/</a>

## ■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 『「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

10代男性	0人
10代女性	0人
20代男性	0人
20代女性	0人
30代男性	0人

30代女性	0人
40代男性	4人
40代女性	6人
50代男性	8人
50代女性	0人

Q2:『「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます』の感想を教えてください。

「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 1話～5話	セラフィーナのライバル心に全く気が付かないほど、清楚系の見た目に違わない人の良さも好ましいですし、豹変したユリウスの態度にも動じなかったり、ほわほわしたお嬢様っぽいのに生活力が高かったりと意外とたくましいところもかわいくて、たちまちエルサのことが好きになりました。はやくユリウスが改心して、エルサを溺愛するようになってほしいと思いました。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 1話～5話	次期公爵様という立場なので、周りは彼自身ではなく彼の立場を見ている人たちばかり。そんな中でまったく裏表なく彼に対し、彼のために何ができるか考えてくれるヒロイン。一度愛する気がないと突き放したというのに。そりゃ溺愛してしまっただけで当然ですね。太陽のようなまっすぐでかわいらしいヒロインは読者としても応援したくなります。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 1話～5話	エルサの鈍感っぷりが面白かったです。セラフィーからイヤミを言われても、エルサはスルー。というか、社交界に出たことのなかったエルサからすると、それがイヤミとすら通じません。自覚なしにセラフィーからのイヤミを一蹴してしまうところが笑えました。気になったのはセラフィーの動向です。お茶会ではレベッカの目もあったので、セラフィーはあれ以上強く言えませんでした。しかしエルサに不満を抱いていることは間違いないでしょう。今後エルサにどのようなアプローチをしていくつもりなのか注目したいです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 6話～10話	作中に出てくるヤルモが本当に厄介な存在ですね。ユリウスに関してのいかがわしい噂話をエルサに告げ口してしまうので、その展開がかなり見ていて胸がドキドキしますね。しかし、エルサはユリウスのことをちゃんと信じているのでその言葉に惑わされない感じが素敵ですね。二人の気持ちの通じ合っている感じにさらにときめくこと間違いなしです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 6話～10話	セラフィーナと彼女の兄であるヤルモのせいで、せっかく良い方向に進み始めていたエルサとユリウスの仲がこじれてしまわないかハラハラしましたが、むしろユリウスがエルサへの気持ちをしっかり自覚することになりましたし、体調を崩した自分を献身的に看病してくれたエルサに対してさらに想いを深める結果になって、心からホッとしました。ただ、セラフィーナだけでなくヤルモもまだまだ2人に絡んできそうなので、今後の心配です。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 6話～10話	エルサは良い女性であるものの、心配にもなりました。純真なところはいいのですが、悪意に気づかないところが問題といいたいでしょうか。今のところレベッカやハンネスのサポートもあってトラブルには発展していませんが、毎回助けてくれるわけではありません。純真なところは長所でもありますが、心配です。気がかりなのはセラフィーです。好意を抱いていたユリウスから、完全な拒絶を示されました。セラフィーのプライドはズタズタになったでしょう。このまま黙っているような女性ではないでしょうし、どのようなアクションを起こすのか注目したいです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 11話～15話	作中でヤルモがエルサにスキンシップする場面があるのですが、それを見てしまったユリウスが心を痛めてしまう姿がとても興味深いです。完全にエルサがヤルモに対してうつつを抜かしていると判断して心を閉ざしてしまう姿がなんだか可愛いですね。でもユリウスの素晴らしいところは、ちゃんとエルサ本人に嫉妬した事実を告げる部分です。ユリウスの素直さが

	凝縮されている感じがするので、より彼に好感が持てる事間違いないです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 11話～15話	愛する気はないと言っていた旦那様ですが、ついには土づくりを手伝ってくれるまでに。読者としても農業をやってみたくになります。とはいえまだまだいろんなハードルがありますね。それにしても、ヒロインみたいなのがご主人様だと仕えている人たちも楽しいはず。だって農業はもちろん、チャリティーバザーとなんでも自分が主となってやってくれるのですから。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 11話～15話	トラブルもありましたが、それがかえって二人の距離を縮めてくれたような気がします。実際、ユリウスがエルサを愛していることを自覚出来たのもそのおかげのようなもの。ユリウスから愛を囁かれ、エルサの方にも慣れない感情が芽生えていくところが良かったです。気がかりなのはヤルモですね。ユリウスに悪意はなかったわけですが、ヤルモにとってはショックな出来事だったでしょう。それ故に、ヤルモはユリウスに対して良からぬ感情をいまだ抱き続けています。どのような搦め手でユリウスを攻めるのか注目したいです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 16話～20話	本当にユリウスの心配りの部分はすごく魅力に溢れていますね。ある時、エルサを連れてクレーサ地方に視察に行くことになるのですが、泊まる部屋でダブルベッドを用意されてしまう展開には驚きましたね。一緒に寝るわけにもいかないのでユリウスがエルサにベッドを譲ってあげる姿など本当に彼の優しさが凝縮されています。でもその事で、エルサの気持ちも色々と思いついていくのでその部分も面白いです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 16話～20話	結婚って仕事と違って単純に割り切れるものではない。契約結婚って大変ですね。決してそういう仲でもないのに一つベッドで寝ることになったり、って一緒に寝ましょうとかヒロインが天真爛漫過ぎる。でもなんだかんだあって距離が近づいてきたと思ったのに、契約結婚っていうのが鎖となって重くのしかかってくるとは。いつも笑顔でいてもらいたいものです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 16話～20話	面白い展開になってきました。ヤルモはエルサに対して特別な感情を抱いてしまったように思います。するとヤルモはエルサに、妹のセラフィーはユリウスに惚れてしまったということ。つまり兄妹揃って横恋慕してしまったということに。つくづく因果な兄妹だなんて笑ってしまいました。気になったのはユリウスとエルサの関係です。レベッカが家出してくるといふトラブルはあったものの、これがかえって互いを意識させました。結婚初日にユリウスの作った壁がそろそろ壊れそうで注目したいです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 21話～23話	作中、社交界のシーンが描かれるのですがそこに登場するユリウスの母マイヤの姿に圧倒されました。とにかくユリウス同様美しさという部分に磨きがかかっている感じでたまりませんね。やっぱり貴族だという事で所作一つ一つに気を払っている感じがマイヤの姿から伝わります。あと社交界独特の趣も感じられますし、登場人物たちが牽制しあっている雰囲気も窺えて非常に興味深いです。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 21話～23話	プチトマトを収穫しながら一生懸命ユリウスの名前を呼ぶ練習をするエルサもかわいかったですし、その後練習の甲斐あってエルサに名前呼びで見送ってもらえたユリウスが隠しきれない喜びを噛みしめている表情も微笑ましくて、もう夫婦なのにとても初々しい2人を見て、ほっこりした気分を味わえました。そんな様子を優しく見守っているロイアス家の使用人たちの姿も描かれていたので、自分も使用人になって間近で2人の関係を見守りたくなりました。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 21話～23話	孤児達の勘違いぶりが笑えました。確かに孤児達の言う通りなんですよ。孤児達がもう少し大人だったら男女の機微に気づけたかもしれませんけど、今の彼らにそれを求めるのは無理と言えるでしょう。エルサ達の不仲説を一生懸命唱える姿が笑えました。気がかりなのはラストシーンです。まさかエルサが誘拐されてしまうとは。すでにかかなり遠くまで移動しているようですし、無事見つけられるのか心配になりました。
「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜか溺愛してきます 24話	エルサたちが無事でホッとしました。もちろん現時点ではというだけですが、それでも乱暴に扱われていなくてよかったです。とはいえ、一番の問題点が残っています。それは、カルーレにエルサたちの開放条件を飲む意思がないということ。これでは、エルサたちが解放されることはありません。条件を飲まないとなれば、誘拐犯たちの行動はエスカレートしていくでしょう。捕らわれたエルサたちが今後どのような扱いを受けることになるのか、心配になりました。

<p>「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜ溺愛してきます 25話</p>	<p>ハンネスの有能ぶりに驚かされました。エルサの目撃情報があったのならまだしも、それが無いにもかかわらず居場所を突き止めてみせたのですから。その推理力の高さには感心させられます。一方、ユリウスも見事でした。自ら燃え盛る建物の中へ飛び込み、エルサを救出してみせたのですから、その覚悟と行動力は際立っています。この出来事が、二人の関係にどのような影響を与えるのか、今後の展開を見守りたいところです。</p>
<p>「きみを愛する気はない」と言った次期公爵様がなぜ溺愛してきます 26話</p>	<p>カールレとヴィクトルの行動は意外でした。二人とも議長選を非常に重視しており、これまでは家族よりも政治や立場を優先する人物のように見えていたからです。それだけに、今回それぞれが家族のために行動した姿には驚かされました。家族を守るために行動する父親たちの姿は、ユリウスの考え方に変化をもたらしたようにも思います。一方で、気になるのは舞踏会です。エルサは華やかな社交の場に慣れていません。貴族社会のしきたりや人間関係にもまだ不安を抱えているだけに、舞踏会で何か失敗をしてしまうのではないかと心配になりました。</p>

## 漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス